



# Part 4

# 地域連携 × SDGs

本学は、蓄積してきた知見や研究成果を活用し、地域が抱える課題解決に取り組みながら地域との強固な関係を構築してきました。現在では、石川県および石川・富山県内13の市町自治体と連携協定を締結し、SDGs達成に向けて着実な成果を生んでいます。

## 学生のための地域共創プロジェクト

### アエル Project:AERU

コロナ禍で減ってしまった学生と地域の出会いの機会を創出するため、先端科学・社会共創推進機構は2021年度から「Project:AERU」をスタート。本学学生を対象に、フィールドワークや講演会、ワークショップなど、地域を舞台にさまざまなイベントを企画・開催しています。



担当 / 先端科学・社会共創推進機構  
Project:AERU



1.2.公開講座「親子で楽しむハーブの世界 in 薬用植物園(小学校低学年対象)」(2019年開講)の様子。医薬保健研究域薬学系の佐々木陽平教授が講師を務めました。3.輪島市門前町を舞台にした公開講座「歩いて学ぼう! 岩石学シリーズ② 能登海岸編」。理工研究域地球社会基礎学系の森下知見教授が講師を務めました(2021年開講)。



## 金沢大学公開講座

連携 / 金沢市、小松市、珠洲市



市民向けの講座を開講して学びの機会と知の空間を提供。

価値観の多様化、高度化する学習ニーズに対応し、一人一人の自発的な学習活動や生涯にわたる学びを支援するため、幅広い分野の講座を開講しています。また、「金沢大学サテライト・プラザ」のほか、珠洲市内、小松市内各1カ所にもサテライト拠点を設置し、石川県内全域の学習ニーズに対応します。



白峰地区での合宿やホームステイ、ワークショップなどを通して地域の歴史や文化に触れ、自然と地域が抱える課題やその解決方法に関する学びを深めながら交流します。

## 白峰の持続可能な開発を目指す留学生交流プログラム

連携 / 白山市白峰



人間と豊かな自然が共生する白峰地区の社会モデルを発信。

白峰地区のNPO法人「白山しらみね自然学校」と連携し、外国人留学生を対象とした教育プログラムを実施しています。2019年には、SDGsの新たな教育・研究拠点として「金沢大学国際機構SDGsジオ・エコパーク研究センター」を開設しました。

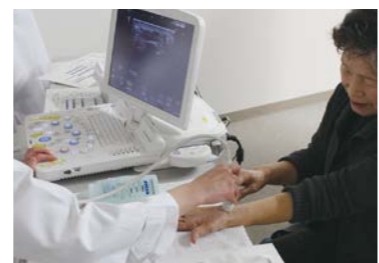
## 先進的な予防医学研究「プロジェクトS.H.I.P」

連携 / 羽咋郡志賀町



住民の健康を追跡調査して地域の健康づくりを推進する。

医薬保健研究域医学系の中村裕之教授は、羽咋郡志賀町の住民を対象に10年以上にわたり、住民一人一人の健康状態を調査。個人単位で疾病の発生原因や予防方法のデータ分析を行い、予防医学の研究と健康づくりの教育活動を進めています。



1,2,3.本プログラムでは、珠洲市にある金沢大学能登学舎を拠点に、地域資源の活用を踏まえた里山里海の新たな価値の創造を目指します。修了生は、植林事業や農業など、さまざまな活動で地域活性化に貢献しています。

## 能登里山里海SDGsマイスタープログラム

連携 / 珠洲市、輪島市、鳳珠郡穴水町、鳳珠郡能登町、石川県



里山里海の自然資源を活かし能登の明日を担う人材を育成。

世界農業遺産「能登の里山里海」を世界に発信し、地域課題に取り組む次世代リーダーの養成を目指し開講したプログラムです。講義・実習を通して幅広い観点から里山里海に関する学びを深められます。2020年度までに205名のプログラム修了生を輩出し、その後の幅広い活躍を支援しています。

## 海洋教育・研究の実習プログラム

連携 / 鳳珠郡能登町



環境保全をテーマにした臨海実習の教育活動に貢献。

能登半島・九十九湾の入り江に建つ「環日本海域環境研究センター 臨海実験施設」は、文部科学省から「環日本海域の先端的環境・保全学に関する教育共同利用拠点」に認定されている全国有数の海洋教育施設。本学や他大学の学生向けにさまざまな臨海実習プログラムを提供しています。



## 金沢大学の国際的なSDGs活動

### 先進予防医学研究センター 連携 / 世界保健機関 (WHO)



WHO-CC指定機関として世界の医学目標の達成に貢献。

WHO-CCとは、WHOと協働してWHOの展開するプログラム(伝染病、慢性疾患、健康問題など)に関連し、研究やデータ収集・解析、技術的なサポートなどを行うことで各国・地域における目標の達成の一環を担う重要な機関。本研究センターは、肝がん分野では世界初にして唯一の指定機関です。※2021年8月末時点



2016年4月、金沢大学大学院先進予防医学研究科の研究施設として新設されました。

### イフガオ里山マイスター養成プログラム

連携 / 国際協力機構 (JICA) 北陸



能登で育んだノウハウをフィリピン・イフガオへ。

2007年10月に「能登里山里海SDGsマイスタープログラム」の前身となる「能登里山マイスター養成プログラム」が開講して以来、14年にわたって蓄積された人材育成のノウハウをフィリピン・イフガオへ発信。世界農業遺産「イフガオの棚田」の保全のための知識や技術を伝授し、担い手の育成に尽力しています。



2014年2月から「イフガオ里山マイスター」養成プログラムを開始。現在も現地との交流が継続。